

Q ファームインを始めてよかったことは？

A 日本だけではなく海外から訪れる
たくさんの人と出会えたこと。農場
経営だけでは得られない豊かな
時間が過ごせた。

Q 一番嬉しかった瞬間は？

A 「何もないこと」をマイナスと捉えが
ちけど、訪れる多くの人に「実は
何もないことが最大の魅力」と言っ
てもらえたこと。

ファームイントント

住所：美深町仁宇布437-3
TEL：01656-2-3939



宿泊に関する
詳細は
こちらから



客室は4室。夕食はジンギスカン、洋風コース料理から
選べ、大きなダイニングテーブルで宿泊者同士、語り
合いながらの食事を楽しめる。



引退しても、なお現役!? 柳生さんの冒険は続く

「もう引退の身なので、あまり話すこと
がない……」と遠慮がちに佳樹さんは
いうが、横で貴子さんが笑う。

ファームイントント誕生から25年がたった
2022年10月、二人は大きな決断をした。
「高齢のため、ファームインの営業から身を
引き、新しいスタッフに管理運営を委ねる
ことを決めました」

運営スタッフを募集し、2023年4月
から2人のスタッフが加わった。東京都出身
の林実幸さんと札幌市出身でフレンチ料理
のシェフ佐藤徹也さんだ。

「引退だと言いつつ、また始めるん
ですよ」と貴子さん。今年の冬から「犬ぞり
プロジェクト」をスタートする。「美深町
には雪があるのに、スキー場がない。冬の
アクティビティとして犬ぞり体験ツアーを
企画しています」と佳樹さん。そりを引く
犬を飼育し、訓練中だ。

佳樹さんはアイデアを形にする達人だ。
農場の白樺から樹液を採取して清涼飲料
水を製品化した。さらに、樹液を水の代わり
に使用した無濾過・無殺菌・自然熟成の
クラフトビールの開発にも関わっている。
町の市街地にある築100年近くのレンガ
倉庫を改装し、ビール工場に併設したレス
トラン「BSB」も始めた。

「引退したよ」と言いつつ、新たな挑
戦を続ける柳生夫妻。自らが「農のある暮らし」
を楽しみ、その魅力を発信し続けている。

FARM × STAY

農のある暮らし

農業に少し興味が出てきた。
今すぐ農家になりたいわけじゃない。
そんな人におすすめなのが、
農家に泊まって農業体験などができる
「ファームイン」だ。
農のある暮らしを、のぞいてみよう。

何もないからこそその贅沢 時の流れに身を委ねる

旭川市から北へ車で2時間ほどの場所
にある美深町。北海道の中でも豪雪地帯
とされ、冬の最低気温がマイナス30℃を
超える厳寒の町でもある。

町の市街地から東へ30km走ると森に囲
まれた仁宇布に到着。白樺林の中に佇む
ファームイントントが現れた。

放牧中の羊が見えるダイニングで柳生
佳樹さんと妻の貴子さんが語った。

「1996年、生まれた美深町に戻り、
肉牛牧場だった松山農場の3代目として、
羊牧場と農産物生産の農場に転換しま
した。翌年にファームイントントを開業。
近くに自動車メーカーのテストコースが
あって、冬も宿泊が見込めたことも後押し
になったかな」と佳樹さん。

車で5分ほどにある松山農場の羊舎
では、約300頭の羊を飼養している。
羊肉の加工品の他、羊のミルクを使った
羊乳チーズ・ヨーグルト・ソフトクリーム・
アイスクリームの製造も行っている。

「村上春樹さんの小説『羊をめぐる冒険』
の舞台が美深町ではないかと話題になって、
今でも春樹さんのファンが訪れているん
ですよ」と貴子さんがエピソードを話して
くれた。小説の出版が1982年で、
ファームイントントの開業が1987年
だから、これはファンタジーなのだが、小説
の背景が仁宇布やファームイントントと
重なることが多いという。